

少なくとも主体部分は伝えられるように
西山城内の遺構とみてよい。

小峯寺厨子

所在地 白河市字道場町四〇番地
所有者 小峰寺

白河山小峰寺は弘安三年(一一八〇)
一遍上人の開基と伝える時宗寺院で、
白川結城氏の菩提寺である。

本堂内にある厨子は、総高百九十六
センチメートルの小ぶりな宮殿である。
手法からみると長押を使用するほか
は純然たる禅宗様建築で、一間、一重
寄棟造、板葺で組框の上に建ち、主要
部は黒、朱漆、塗金で着色されている。
両開きの唐戸内側には不動尊・多聞
天の漆絵と種子が描かれており、本宮
殿が千手観音を安置した厨子であるこ
とを示している。長押と虹梁間の欄間
には透し彫り技法を用いた秀れた鎌倉
彫がある。

この厨子は、室町後期の特色を具備
した宮殿であり、扉の漆絵による仏画
欄間三面の鎌倉彫は、製作期の明らか



小峯寺厨子

なものとしてまれにみるもので、工芸
品としても重視すべき遺品である。

絵画

絹本着色名体不離阿弥陀画像

所在地 相馬市小泉字高池前一三
一番地
所有者 歡喜寺

南無阿弥陀仏の名号と阿弥陀仏本体
が不離であるという思想は古くからあ
ったが、この画像は、梵字? (南無)
と阿弥陀仏からなる六字の名号を圖案
化して尊容を構成し、それに顔と手足
を付し、蓮台上に立たせるといふ卓抜
な構図になっている。

この画像は天台系の阿弥陀信仰とは
別に、真言密教系の阿弥陀信仰のあり
方を示す資料としてほとんど類例がな
く、極めて貴重である。

梵字?と阿弥陀仏をもって六字の名
号を表すユニークな形式といい、古い
図柄になっている。

絵画の手法から、顔の面長、手足の
表現、着衣の金箔等、鎌倉中期以降と



絹本着色名体不離阿弥陀画像

推定され、暗緑色の蓮肉と紅蓮の花び
らが印象的で、作品が並のものでない
ことは確かである。

彫刻

薬師如来光背化仏

所在地 耶麻郡磐梯町大字磐梯字
本寺上四九五〇番地
所有者 恵日寺



薬師如来光背化仏

像高五十四〜四十九センチメートル

樺材の半肉彫り、七体のうち三体は、
面相が豊頬、丸顔で平安的、残り四体
は面長で引きしまり鎌倉的、衣文の彫
刻は簡単に省略され、台座付きで、室町
時代の彫刻の特色をよく示している。

頭髪は化仏にしばしばみられる渦巻
き型の清涼寺様式である。恵日寺の本
像は徳一創建の平安初期から薬師如来
と考えられるが、史実として明らかに
なるのは観応元年からである。その後
応永二十五年、寛永三年、明治六年に
焼けている。この七体の化仏は明治の
火災のとき焼け残ったもので、何度か
焼失しながらも平安時代以来続いてき

た会津恵日寺薬師信仰の唯一の遺品と
して貴重である。

木造阿弥陀如来坐像

所在地 二本松市根崎一丁目二四
九番地
所有者 善性寺

像高四十五センチメートル。本像は
福島市下鳥渡陽泉寺の国指定重要文化
財釈迦如来の胎内銘にもある可真竜江
の閉基、善性寺の本尊である。元来は
二段、三段に結い上げた高い宝髻がつ
いたのであろう。妙観察智印を結ぶ小
型の宝冠阿弥陀である。

寄木造り、漆箔、玉眼嵌入の像で頭
部は首柄で体部に差込む。切長の眼、
引きしまった口唇、膝にかかる彫りの
深い複雑な衣文等の処理に中国宋風の
影響を受けたいわゆる乗円仏共通の造
形がみられ貴重である。



木造阿弥陀如来坐像

工芸

刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅

所在地 相馬郡鹿島町南屋形字前